

新しいフェーズ

包括的な公衆衛生学的目標

パンデミック間期

フェーズ1 . ヒトから、新しいインフルエンザウイルスの亜型は検出されていない。ヒトに感染を引き起こした、インフルエンザウイルス亜型が動物で見られるかもしれない。もしも動物に見られた場合、ヒトの感染や発症のリスク^aは低いと考えられている。

世界、地域、国家、準国家レベルでの、インフルエンザパンデミック事前対策を強化する。

フェーズ2 . ヒトから、新しいインフルエンザウイルスの亜型は検出されていない。しかしながら、動物に循環しているインフルエンザウイルスの亜型が、ヒトの疾病として著しいリスク^aを提示する。

ヒトへの感染伝播のリスクを減少させる；もしもそのような伝播が発生したら、迅速に検知し、報告する。

パンデミックアラート期

フェーズ3 . 新しい亜型によるヒト感染、しかしヒト - ヒト感染伝播は無く、非常にまれな場合に密接な接触者^bへ広がる。

新しいウイルス亜型の迅速な同定と早期検知、報告、そして追加症例への対応を確実にを行う。

フェーズ4 . 限定されたヒト - ヒト感染を伴う小さなクラスター（集積）が見られる。しかしウイルスがヒトへ十分順応していないことを示唆するように、拡散は非常に地域的に限局している。

ワクチン開発を含む、事前対策を導入する時間を得るために、新型ウイルスを限定された地域に封じ込めるか、あるいは拡散を遅らせる。

フェーズ5 . より大きなクラスターが見られるが、ヒト - ヒト感染の広がりには依然限局している。ウイルスがよりヒトへ順応しつつあることを示唆するが、まだ完全にはヒト間の感染伝播は確立していない（著しいパンデミック・リスク）。

封じ込めあるいは拡散を遅らせるためや、パンデミックを避ける可能性のため、そしてパンデミック対応策を導入する時間を得るために、最大限の努力を行う。

パンデミック期

フェーズ6 . パンデミック：一般人口への増加した継続的感染伝播^b。

パンデミックの影響を縮小する。

^a フェーズ1と2の違いは、動物のあいだに循環しているウイルス株による、ヒトの感染や疾病のリスクに基づく。この区別は、様々な要因と現在の科学的知識による、その相対的重要性に基づく。これら要因には、動物やヒトにおける病原性、家畜や家禽あるいは、野生動物での発生、ウイルスが動物間で蔓延（enzootic）しているのか、動物間流行性（epizootic）であるか、地理的に限局しているか、広域に広がっているか、またその他の科学的パラメータなどが含まれる。

^b フェーズ3、4、5の違いは、パンデミック発生のリスクの評価に基づく。様々な要因と、現在の科学的知識からのその相対的重要性は検討される。これらの要因には、感染伝播率、地理的分布と拡散状況、疾病の重篤性、ヒトのウイルス株からの遺伝子の存在（もしも動物由来株であれば）またその他の科学的パラメータなどが含まれる。